

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	授業に対しては前向きに取り組む生徒が多い。昨年よりも自分の考えをもった状態でグループ活動に参加できる生徒が増えたように感じる。一方で定期考査などの演習問題では答えを導き出そうとするものの、文章内容を指定された字数内で答える問題につまづく生徒も見受けられ、記述問題に課題を感じる。全国学力調査の結果では観点別に見ると正答率に大きな偏りはなかったが、領域別で見ると僅かに平均を下回るものもあった。	全国学力調査の結果を踏まえて以下3点のことに今後取り組みたい。①自分の考えを文章化するだけでなく、相手を意識して考えを説明する機会を増やす。②漢字を書く問題の正答率が低く、無回答も多かったため漢字小テストを実施し定着を図る。③文章では登場人物の心情理解が苦手な生徒がいるため、場面展開と合わせて捉えられるように授業で取り組む。	
社会	・アンケート結果から、社会科の学習が楽しいと答える生徒が大半を占めていた。しかし、得意と聞かれると「はい」と答える生徒の割合が減っており、好きだけど得意と感じることができない生徒が多いことが分かった。 ・授業に対して意欲的で、授業ごとの振り返りでは、自分なりに考えたことを一生懸命に書く生徒が多い。授業では理解できても、テストになるとその知識を活用できず、忘れていくことが多くみられる。	・小テストや授業の振り返りを行ったり、生徒同士で教え合いの時間を設けたりすることで、アウトプットする場面を作り、知識の定着を図る。 ・時事問題に興味をもっている生徒も多いので、生徒の興味関心につながる話を取り入れ、社会を勉強する楽しさを感じるができる授業をつくっていく。 ・知識を活用するような問題の練習を行う。	
数学	全体的には意欲的に授業に取り組み、基礎的な計算力を身につけている生徒が多い。しかし、数学に対し、苦手意識をもち基本的な計算力が身に付けていない生徒も見られる。学力調査から、「図形」「関数」の知識を活用する力が身につけていない生徒が多いことが分かった。また、正答率が2極化している傾向があることが分かった。	基本的な知識・技能を活用する力を伸ばしていくために、宿題や授業の中で、関数の表やグラフを読みとり活用する問題演習の機会を多く設け定着を図っていく。また、図形の論証では、条件を整理して論理的に書かせる練習をすることで苦手意識を取り除いていく。	
理科	全国学力調査の結果より、東京都平均と同じ程度の正答率であった。分野としては、生物・地学分野の正答率が高く、物理・化学分野の正答率が低かった。また、問題形式の観点から選択式・記述式の問題については正答率が高かったものの、短答式の問題については低い結果となった。定期考査で短答式の問題の出題が少ないことから正答率が低くなっていることが考えられる。	・普段の生活と理科の学習を関連付けて考えることが出来ていない部分も多いため、普段の生活と既習事項との関連を意識させるような復習の時間を定期的に設けるようにする。(新聞やテレビ番組、動画等を用いた学習) ・今までの定期考査では、選択式・記述式の問題を意識して作成していたが、短答式の問題にも重点を置いて作成するようにする。	
音楽	・全体的に意欲的に取り組む生徒が多い。積極的に発言もしているが、発言する生徒が固定されてきてしまっている。 ・鑑賞分野において感じたことを言葉で表現するということが苦手な生徒もいる。 ・楽典は基本の理解に個人差があるので、繰り返し学習が必要と思われる。	・学習に対する意欲を大切に、体験、グループ活動、話し合いを上手に取り入れ、学び合いができるようにする。 ・学習の理解の定着のために、発問の工夫や、小テストで、確認を行う。 ・鑑賞においては、考えさせる場面の工夫や、発表の仕方も考えて、自分の思いをより具体的に伝えられるようにする。	
美術	最高学年となり進路を意識して多くの生徒が意欲的に授業に取り組むことができるようになってきている。作品制作に関しては、失敗を恐れ教師へ確認する場面が多く見られた。これからは、自ら考え主体的に取り組む、調整していく姿を期待していきたい。	授業の中で、自ら考え事項選択していく場面を設定していく。失敗して、あきらめるのではなく粘り強く取り組み調整・改善していけるよう言葉掛けを行う。失敗を調整し・改善する術を適宜教示していく。また、授業において思考・判断・表現力を高めることができるようICTを効果的に活用していく。	
保健体育	体育分野に関しては、各自が個人の目標をもち活動している。そのため、運動が苦手な生徒でも自分の立てた目標達成に向けて積極的に活動している生徒が多い。活動の中で課題発見と課題解決に向けて考える力や、自分の考えを他者に伝える力を身に付けさせることが課題である。保健分野に関しては、習ったことを自身の生活の中で活用していけるようにすることに課題がある。	授業の中で、生徒同士が話し合ったり教え合ったりする時間を設け、主体的な活動を促すとともに、考える力と考えを他者に伝える力を育む。また、引き続き生徒たちが個人の目標をもって授業に臨むように授業を進めていく。保健分野では、より具体的な例を出しながら教えていくことで実生活と結びつきやすくする。	
技術・家庭	【技術】全体的に落ち着いた態度で取り組んでいる。少ない授業の中、課題学習を取り入れる中、提出しない生徒もみられる。遅れても出す努力がしている姿勢が大切と促している。 【家庭】授業に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。裁縫実習が始まり、進捗状況に個人差がみられるように今後なってくると思われる。	【技術】タブレット及びPC室の利用による課題への取り組みに対し、操作・しくみの理解に努めさせる。個々の進捗に注視する。 【家庭】個別指導や毎授業の到達目標の明確化が必要である。	
外国語(英語)	・話すことへの意欲はあるが、まとまりのある英文で伝えることができる生徒が少ない。 ・今までの学習内容を総合して書く力がまだ身につけていない。 ・まとまりのある英文を読んで概要を把握し内容理解ができる生徒と難しい生徒の差ができていく。	・QA活動や、ピクチャー描写などで即興的に話す力をつけていき、その振り返りを行う。 ・スピーキング活動で行ったことを書くことで、話す力と書く力をも身につけていく。 ・レベルにあった読解に取り組む、読む力をつけていく。	
道徳	・ジャムボード、スライドを用いて、意見交換を行うスタイルが定着している。積極的に取り組む生徒が多い。 ・画像を見せることで、テーマをイメージしやすい。 ・対話的な深い学びの所では、ICTを含めて工夫が必要である。	・ICTを利用し、意見をより活発に交流できるよう工夫する。 ・生徒たちから出た意見をフィードバックしながら、対話的な深い学びができるような環境を作っていく。	
総合的な学習の時間	SDGsを意識した取り組みを行うことにより、社会で起きたことを自分の事として捉えることができる生徒が増えてきている。修学旅行の事前学習ではSDGsと京都・奈良を結び付けて事前調査を行う事でより深い学びにつなげることができた。自ら課題を発見し、その課題について解決しようとする能力の向上が今後の課題としてあげられる。	様々な角度から社会で起きている事象を多面的・多角的に捉えられるように各学年として取り組むテーマを精選し系統的・計画的に取り組んでいく。ICTを効果的に活用し、自ら考え調査し、問題解決に向けて行動する意欲を高めしていく。	